

水で飲むのはもう飽きた



班員 波岡 航輝 榎本 志絆

指導者 熊川大輔先生

黒木 蒼來 長友 悠花 清松夢羽美

郡司泰祥先生

<研究の動機>

薬を飲むときに水だけを先に飲みこんでしまい薬が喉に残ったり、飲んだ後に薬が喉に残っているような違和感を感じたりすることがあるため。

<研究の目的>

薬に合った最適な飲み方を見つけ、お年寄りや子どもの嚥下障害を軽減する手助けをする。



<先行研究>

オブラートや薬用ゼリーを用いたり、水にとろみをつけたりすると飲みやすくなる。

【知っておきたい】誤嚥をふせぐ薬の飲み方と家庭でできる工夫

<研究方法>

- ①粉ミルク・ラムネをそれぞれゼリー・とろみ剤・オブラートで包む。
- ②実際に飲んで貰い、粉薬・錠剤それぞれで1番飲みやすい物のアンケートを取る。
(粉薬は粉ミルク、錠剤はラムネを代替品として用いる)

<仮説>

錠剤では滑らかで均一なゲル状である薬用ゼリーの方が飲みやすく粉薬では液体に近い状態のとろみ剤の方が飲みやすい。

<必要な道具>

- ・ラムネ ・紙コップ
- ・とろみ剤 ・紙皿
- ・薬用ゼリー・スプーン
- ・オブラート・ラップ
- ・粉ミルク ・電子天秤



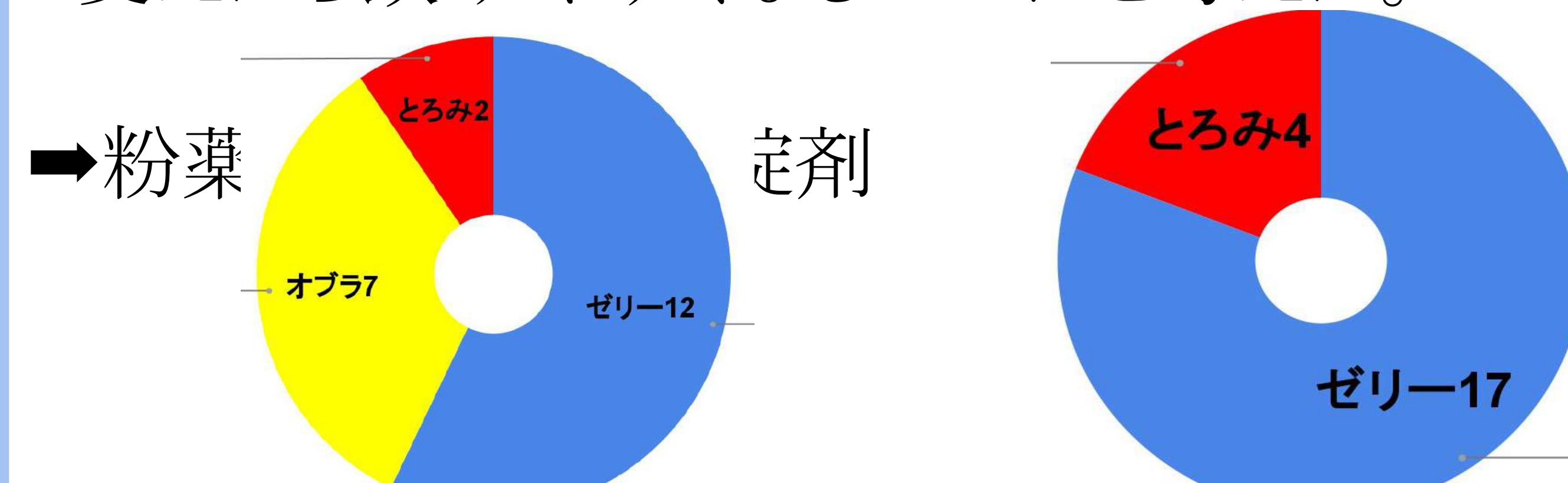
<参考文献>

<https://kaigo.homes.co.jp/manual/healthcare/medicine/goen/2025/2/8>

<https://www.kokucare.jp/meal/meal/assistance/2025/2/8>

<研究結果>

①薬用ゼリー・オブラート・とろみ剤の中で、粉薬・錠剤ともに薬用ゼリーが一番薬が飲みやすいことがわかった。私達は、2番目に評価が高かったとろみ剤の粘度を変えたら飲みやすくなるのではと考えた。



②とろみの粘度を変えて実験し、濃いとろみ のときに最も飲みやすいことがわかった。

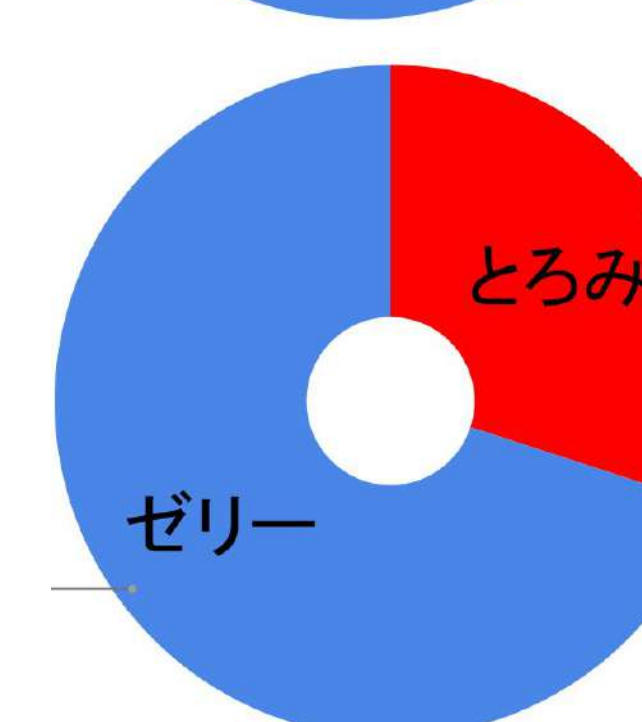
そこで、飲んでもらう実験のときに、薬用ゼリーとの比較に用いるとろみ剤の粘度を 中間から濃いものに変えることにした。

使用量の目安	薄いとろみ	中間のとろみ	濃いとろみ
とろみの強さ・状態			
液状食品	スプーンを傾けると ずっと流れ落ちる	スプーンを傾けると とろとろと流れる	スプーンを傾けても 形状がある程度保たれ、 流れにくい
水 (20℃)	1.3g	2.0g	3.1g

③30人に実際に飲んでもらい、薬用ゼリー・とろみ剤のどちらが飲みやすいかのアンケートを実施した。以下のような結果となった。

◎粉薬
とろみ剤→6人
ゼリー →24人

◎錠剤
とろみ剤→9人
ゼリー →21人



<考察>

これらの結果から、粉薬・錠剤のどちらも薬用ゼリーで飲むのが一番飲みやすいことがわかった。理由としては、薬用ゼリーに流動性があり、喉の引っかかりを感じにくかったことが挙げられる。また、とろみ剤との違いとして、1つ1つかたまりがあることで、薬が喉に残るような違和感を解消することにつながっていると考えられる。